

---

# らぶれたあ

美嵐

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

らぶれたあ

### 【Nコード】

N5272D

### 【作者名】

美嵐

### 【あらすじ】

松本紗菜が初めてした恋・・・それは切なくて苦しくてでもあたいたかい長い長い恋。あなたは誰よりも最悪な人だったけど、誰よりもあたしを愛してくれた人でした。

## 出会い（前書き）

この話はすべてフィクションです。

## 出会い

中2の春。あたしの恋は始まった。

毎日普通の生活を送って、何も刺激のない日々が過ぎていた。

気がつけば5月。クラスでは席替えがあった。毎月の始めにある唯一の楽しみ

21番・・・・・・・・・・

どこだろお・・・・・・・・

やった 一番後ろじゃん！！後ろは何かと自由であたしは最高に嬉しかった。

ところで・・・・隣は？

「やったあー！後ろだし！！」

1人で声だして喜んでいる人。この人は・・・・木村治貴くんだ。話したことない・・・・（汗）

まあいつか。

ただ、その日2人に会話はなかった・・・。

次の日。

朝からも沈黙・・・。

沈黙を破ったのはあたしからだった。

「木村くんって何部だっけ？」

「どおでもいい話か・・・」

「えっ、俺？俺はサッカー部だよ。松本さんは？」

「あっつあたし？あたしはバレー部。」

やばい！会話終了？

「マジ？俺の兄貴と一緒にじゃん 俺の兄貴 高のキャプテンしてる。」

「えっ！あたし知ってる！あの人木村くんのお兄ちゃん？すごい！チョー上手いよね。有名だし」

意外な展開のおかげであたし達の会話は進んだ。

次の日の朝。

「おっはよお！紗菜ちゃん  
木村くんから頭をなでられた。」

紗菜ちゃん？

昨日は”松本さん”だったよね・・・。

馴れ馴れしい！！

まあいいや。  
嫌じゃないし。

「おはよおっ!!」  
あたしも木村くんの背中を押した。

あたし達が親しくなるのに時間はかからなかった。

「紗菜ちゃん、ここわかんない！」  
「ハイハイ、ここはね・・・」

ってあたしはお姉ちゃんか！！

そんな会話が毎日繰り返されていた・・・笑；



## 展開

「なんかあった??」

成美が何か意味深な顔で聞いてきた。

あつ成美は小学校から一緒に中2になって同じクラスになったからいつも一緒にいる何でも相談し合える大親友。

「えっっ?別に?。なんで?」

「いや、なんか紗菜この頃楽しそう　てか木村くんってどんな人？  
この頃紗菜とよく話してるよね？」

「ああ、木村くん？　まあ、いつもあたしを頼ってばかりで・・・  
もつと自分のことは自分でしてよ！！　って思うよ」

「ふん。　なんか紗菜って特別ってかんじ。　てか付き合ってるみた  
いだよ」笑

「はあ！？ありえないよう！」

「そお？あたしはお似合いだと思うけど。まあなんかあつたらちや

んと報告してねえ」

成美は何かを感じたみたいだった。

あたしは木村くんのが好きなの？？

その時は自分でもどうなのかわからなかった・・・。

秋。

部活は3年生が引退して、新人戦が近づいていた。

「ねえ、紗菜ちゃん。今度俺試合に出ることになったんだー。」

「おお！よかったじゃん。おめでとお」

「さびしいなあ」  
「  
木村くんが手首をさすりながら言った。

?  
?

!!

つまり木村くんはミサンガがほしいらしい・・・。  
「仕方ないなあゝ作ってあげるよ！」

とか言いながらあたしは少し嬉しかった・・・。

歸りに刺繡糸を買って、さっそく作り始めた。  
前に部活の先輩に作ってあげたことがあったから1時間くらいで完成した。

でもすごいウキウキした。

次の日。

「左手出して  
」  
あたしはミサंगाを取ろうとポケットに手を入れた。

「ええ。なにになに」

もしかして木村くん覚えてない!?

自分から言ったくせに!!

あたしは木村くんの手首にミサंगाをはめてあげた。

「マジ！？ありがとう　　・・・ヤバイ、俺めっちゃ活躍できそう。」

木村くんがあどけない笑顔で言った。

その笑顔を見て・・・感謝の言葉を聞いてあたしのドキドキは今までにないくらいに速くなった。

確信した。

あたしは・・・

木村くんのが・・・

好きだ。

## 告白

あたしには3歳からの幼馴染がいた。  
田中賢。

賢は同じクラスで、木村くんと仲がいい。

「おい、紗菜。ちょっと・・・。」

賢はトイレでの木村くんとの会話を聞かせてくれた。

じゃあ、ここで再現しよう。

木村くん：おい、紗菜ちゃんっているじゃん？

賢：おお。紗菜とは幼馴染。

木村くん：おつつ幼馴染！？いつぐらいから一緒？

賢：3歳くらい？

木村くん：3歳！？まじ……。それって、恋愛対象になったり・  
・ありえる？

賢：はあ？？おまえ何いつてんの？ありえねえよ……。笑。あのな、  
そんな小さい頃から一緒だとそういう感情は生まれねえんだよ。ま  
あ不思議に感じるかもしれないけどな。

木村くん：そ……。そかあ！！　なあんだよかったあ

木村くんはその後トイレを出て行ったらしい。

賢：よ．．よかったあ？？

それって．．．

「あいつは紗菜のことが好きなんじゃないのか？」

「そ．．．そかあ！」

あたしは急に自信がわいてきた・・・。

実は好きになっってからも特にアタックしたわけでもなくもちろん告白したわけでもなかった。

する気がなかった・・・というより、する勇気がなかった。

自信がなかった。

もしかしたら、木村くんにとってあたしは親友みたいなもので、恋愛対象じゃないと思っていたから。

でも賢に背中を押された。  
賢のおかげで自信がわいてきた。

告白しよあつかな？

告白しよあ！

その日の放課後・・・  
あたしは木村くんを呼んだ。

「珍しいね！紗菜ちゃんが俺を呼ぶなんて  
」

「そお？かもね。」

やばい・・・緊張max!!

「で、何??」

「実は・・・あたしは木村くんのが・・・」

「好きだ。」

えつつ！？

「俺ずっと紗菜ちゃんのが好きだった！てか今でも大好きだから・・・付き合ってくれない？」

「あたしが言おうと思ってたのに。」

「……は男が言つてきだろ?。」

そおかあ・・・?  
ともかくあたしは、最高に嬉しかった

「答えは?。」

「もちろんオッケーだよ」

あたし達の恋が始まった。

「てかさあ、” 木村くん” てやめない？」

「えっ、なんで？」

「俺ら付き合ってるんだよ！呼び捨てでいいよ！」

木村くんのカップルのイメージってどんなかんじ？  
まあいいっかあ

確かに呼び捨てになるとちょっと特別な感じがするかも・・・

「わかったあ。じゃあ”治貴”ね。てかあたしも”紗菜”でいいよ。」

「おい、紗菜！」

「うん？」

「呼んただけ笑。」

初めて”紗菜”って呼ばれて顔が真っ赤になった。

「何照れてんだよ！おもしれ〜」

あたしは最高に幸せだった。  
もう治貴以外にもいないくらい治貴が大好きだ。

次の日。

成美に報告した。

「やっぱりねえ〜！！あの時から2人は付き合うだろうなあって思ってたもん。」

親友ってすごいよね。

いや、成美がすごいのか・・・笑

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5272d/>

---

らぶれたあ

2011年4月13日22時18分発行